

1、前半(1:00~3:00)「『ことば』の交流が生まれるレクリエーションをたくさん考えよう」 は、いかがでしたか

- ・よい 29
- ・ふつう 2
- ・あまりよくない 0

2、前半の感想をお願いします。

- ・興味深いお話でした。ありがとうございました。
- ・日本語教師として、社会に貢献したいと思っているので、いろいろなヒントをいただけて、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・Unlearning がとても印象的でした。常に進化している中では、昔い通じたけど、今では通じないことを unlearning を使って新しいもののためのスペースがつかれるのでとても良かったです。
- ・コミュニケーションのアイデア共有、ぜひ生かしたいと思います。社会教育士は、大切なお仕事ですね。
- ・「おいしい魚をもらえる」とみせかけて「魚釣り」を覚えてもらうという、運営ポイントが印象に残りました。その通りだと思います。
- ・外国につながる子供の日本語教室で、時々イベントをするのも、いいなと思いました。ダンス、料理等、市民活動サークルで、いろいろな体験を日本語を使いながら協働してできたらいいですね。
- ・イベントを運営していく上で、様々な仕掛けしておくことが大切なんだなと感じました。特に写真を撮って、外部のアピールに使う、むしろそれを意識して撮影していくことが大切なんですね。これから Facebook やインスタなど写真が重要になっていくと思うので、大変大きな気づきであったと思います。
- ・目的と目標、成果と実績を勘違いしている各業界の指導者、経営者が多いと感じました。成果は見えない精神的満足感、成長、モチベーション。まさに well-being。実績、目に見える結果は成果の現れ。今一度噛みしめたいと思いました。そして、世の中の上に立つ人たちへ「聞いたか~~~~！」と叫びたい。
- ・レクリエーションという観点から学びを考えたことが新鮮で、学習者が楽しみながら、モチベーションを保ちながら学んでいく上で重要だと感じました。
- ・市の社会教育委員 2 期目として活動しております。社会教育士と言う資格がある事を知らなかったのですが紹介いただけて調べて挑戦したくなりました。

- ・地域の日本語教室の可能性が広がるようなご講演でとても勉強になりました。グループディスカッションも盛り上がり、何度か研修を一緒に受けてきた方々との議論は会話と対話を経た議論ができる関係だと思いました。ありがとうございました。
- ・「アクティビティの中に言葉がある」と言うことで、興味のある活動を提供できれば自ずと言葉がついてくるのではないかと言うことを改めて感じさせていただきました。
- ・とにかくスライドも見やすく、とても分かりやすかったです。私が普段より考えているモヤモヤしていたところをまとめて頂いたようでした。日本語教室で日本語を教えています、先生と学習者ではなく、対等にお互いに学ぶ場でありたいと常に思っていました。また、社会教育士という称号を初めて知り、とても興味を持ちました。本当に学びが多い講座でした。ありがとうございました。
- ・リクリエーションという発想は無かったので、色々なアイデアに触れられて、新鮮でした。職場での相手に配慮した言葉遣い態度の CAN DO が必要。
- ・日本語を教える上でのヒントをいただくことができました
- ・グループで話し合ったことを全体で共有できる時間があればよかった。
- ・講義はお聞きできませんでしたが、レジメを拝見しました。学び直し、場を作る、多用性と包括、興味深い内容でした。また、お話を聞く機会があればと願っています。
- ・場づくりの話などは具体的で、すぐに活用できそうです。グループワークも楽しかったです。
- ・子ども食堂の話が興味深かったです
- ・改めて資料を読んでいます。「魚をもらえる」と見せかけて、「魚釣り」を覚えてもらう感覚で企画・運営する、というのが新鮮でした。「魚釣り」を覚えてもらうには、「魚釣りが学べるよ」と声をかけなければならない、と思っていました。それではそもそも学びたいと思える人しか集まらないところ、「もらえる」なら多くの人が集まり、思いがけず「釣り方」が学べ、学ぶ楽しさに目覚めていく、という好循環になるイメージが持てました。
- ・レクリエーションというより教室運営の目的について、専門的かつわかりやすく学ぶことができました。「社会教育」という言葉は知りませんでしたが、「まちづくり」と考えると誰にでも関わる話なので、広めていきたいです。
- ・実践的内容で大変勉強になった。
- ・目的を明確にして、会を持つこと、ちょっとした意識の高揚で会が素敵になること、ポイントに気づくことができました。
- ・日本語教育を社会教育、生涯教育と考え、様々な地域団体と協力していくことの大切さを知ることができた。
- ・萩元さんのお考えに共感できる部分が多く、今後の活動への活力となりました。理論に基づいて教室活動を俯瞰して見てみることはとても大切だなと思います。最近是对話やレクリエーション活動を通して日本語を学ぶという日本語教室が増えています。活動を通して学ぶ場では、活動の雰囲気によって学びの効果が左右されると考えています。雰囲気が良ければ学

びも促進されるし、雰囲気が悪ければ学びの意欲さえ奪いかねない…。活動の雰囲気作りは活動内容以上に大切なのではないかと思います。しかしながら、活動の内容は重要視するけれど、雰囲気づくりは忘れられがちに感じる事が非常に多いです。活動の雰囲気づくりは、参加者ひとりひとりの少しの意識で良くできると思います。まずは「自分発信」で次の対話活動では明るい雰囲気づくりはを今以上に心がけたいです。振り返りについても、あれもこれもできなかった「反省会」になっていますので、「できたこと」についても発信していきたいと思います。

- ・ブレイクルームで、コロナでこども食堂から食料支援にシフトした方、様々な日本語ニーズ学習者に対応する日本語教室の方とお話ししましたが、新たに特別のレクリエーションを考えるまでに話は到達しませんでした。でも振り返ると、先ずは人が集うことが、気持ちの中でレクリエーションだったと思えるように、親しめる場と時間を共有することが第一歩と感じました。勉強空間でありながらも、緊張を緩和し、親しみを感じるように、ちょっとしたお互いの声かけや、机のレイアウト、お客様の学習者の存在から、教室の片付けだけでも皆で行うなどで、所属の主体になりうる仕掛けに配慮したり、教室の存在をオープンにして他者との関わりで視野を広めるなど、絶えずアイデアを出し、実践し続けることは重要と感じました。我々は教室名「にほんごカフェ」なので常にお茶とお菓子などを用意、発話を増やすためリラックスを心がけています。時々、茶道、いけばな、和服着付けなど、外部のサークルの協力を得たり、逆に公民館まつりにブラジルのバーベキューテントで参加、外国人の料理教室とか、家庭菜園等で外部の人と関わる活動もやってみたり、日本で劇場に行く機会が無い南米系の人と映画館でスペイン語映画を一緒に見る企画、外国人学習者とカラオケで日本語で歌う企画とか、飲食の伴うお花見、花火大会等では常に(ポットラック)持ち寄りパーティーにして、それぞれの国の食べ物で楽しみつつ、文化の違いで食べられなかったりも経験してきましたが、コロナで人との接近が最も危険な状態で、現在これらはほとんど中断中。代わりに zoom 開催するも、導入にバリアが有り参加者が限られましたが、母国に帰った元学習者の時々参加で、また別空間の様な感じもあり、今後も工夫して取り込みたいツールです。という訳で、我々の活動はすべてレクリエーション寄りということで方向性はレクチャーと同じだと感じました。
- ・自分も行政に携わっているものとして、「あるある」の多い楽しいお話でした。

3、後半(3:30～5:30)「自主・自律の精神を養うために、学びの履歴を『見える化』しよう」
は、いかがでしたか

- ・よい 25
- ・ふつう 6
- ・あまりよくない 0

4. 後半の感想をお願いします。

- ・lapbook 初めて聞きました。いろいろなことに利用できるツールだと思いました。ありがとうございました。
- ・成田先生のお話は 以前もお聞きして、楽しみにしておりました。今回は ラップブックについて教えていただき、とてもいいツールだなと思いました。いつか使ってみたいと思います。ありがとうございました。
- ・lapbook の可能性に気づくようになりました。日本語の学習だけではなく、日常生活にも使えるのではないかと思います。
- ・新しいアプリも登場し、クラスを持った時に Lapbook も試してみたいと思いました。
- ・学んだことを図示することは、とても大切で、相手に伝える場合、日本語の文書よりも、より伝わると思います。それを、小学生の頃から行うのは大切だと思いました。子どもならびに大人の支援に使えるのだと思いました。
- ・1 単元ごと、1活動ごとにラップブックができ、学びの見える化ができて、とてもいい取り組みだと思いました。今後の実践に取り入れてみたいと思います。
- ・LAPBOOK を自分で作ってみようと思う内容でした！ 感想でも出ていましたが、メンテイナーやオンライン名刺など 先生のツールの使い方にも感心しました。
- ・まずは自分で試そうと思いました。質問できずに終わりましたが、失敗例、どうしても受けつかなかった児童生徒のお話を伺いたかったです。または拒否反応から入った生徒、学生が最後は一番ノリノリだったとか・・・
- ・Lapbook は初めて知りましたが、視覚や触覚も使って学習できるので、人によって Lapbook を用いたことによって劇的に覚えやすくなるということがあるかもしれないと感じました。
- ・私にとって新しい発見学びが沢山ありました。
- ・Lapbook のアイデアは目的や方法を工夫して日本語教育でも活用できるものだと思います。特に図や絵をまとめたり、防災教室で使うと非常に効果的に使えると思います。先生のプレゼン資料や意見をまとめるツールも非常に参考になりました。ありがとうございました。
- ・Lap Book とてもよい学習方法だと思います。学習の基本は「楽しい」だと私は思っていますので、可能性無限大の LapBook、私も活動の中に取り入れさせていただきます。
- ・Lap book は今日初めて知りましたが、特に小学生に有効な学習方法だと思いました。多分、私が小・中学生だったら、はまっていたと思います。しかし、日本語教室で行うのは、難しいと感じます。出席するのも精一杯の方たちができるかどうかは、疑問です。また、予算の関係もあります。補助金などが増えれば可能かもしれません。
- ・Lapbook は面白いけど、自分が使おうという気にはなりませんでした。
- ・ホスト社会の CAN DO 歩み寄り、外国人ばかりでなく、やさしい日本語で話しかける、地域社会が必要。生活者としての日本語ボランティアが重要。

- ・日本語教育にどの程度使えるかは微妙な気がしました
- ・実際に取り入れてみたいと思った。また、たくさんのアイディアが見られてとてもよかった。lapbook は、色々な目的、対象に使えて、ワクワクするものだと思います。是非、自分自身、教室等で活用したいと思います。
- ・グループワークでのみなさんの豊富なアイデアは教室での活動の参考になりました。実際に手に取って見れる教材は、視覚に訴えたものだと思しやすのかなと思いました。
- ・なんでもかんでもスマホや PC 上に記録・メモ書きして済ませてしまう今日この頃ですが、Lapbook のように紙でなければできない良さ(折りたたみでスペース拡張、紙媒体で保存しておける、友達と交換して見せ合える、などなど)がわかりました。また、单元ごとに1ブック、というのも魅力的です。そこに QR コードを組み合わせることで紙とデジタルを融合させたりも面白いですね。寄せ書きを Lapbook で作ることもできますね。
- ・ラップブックについて初めて知りました。例(動画)のクオリティが高く、1 枚にまとめられるかな？何回もやり直しがしたくなるのでは？と思いましたが、貼り重ねてもいいことを知り、安心しました。ブレイクアウトセッションで私のグループでは、自分の記録のために作るより他の人へのプレゼン資料を作るという位置づけの方が大人は取り組みやすいのではないかという意見が出たのですが、それはラップブックの目的からはずれているのでしょうか？
- ・今後の活動の参考になった。
- ・学びの履歴が見える化することの大切さについて考えることができました。
- ・Lapbook という具体的な教材を知ることができてよかった。
- ・ラップブック、初めて聞きました。そういえば、私のポルトガル語の先生が、ブラジルにルーツをもつ子供たちにポルトガル語を教える時のツールとしてラップブックを作っておられたように記憶しています。たしか、紙ではなく手芸用のフェルトで作られていてとても可愛かったです。今後の日本語教育は、活動を中心の教室も増えていくと思いますので、活動のひとつとしてラップブックを頭の片隅に記憶しておきたいと思います。また、個人的に英語を勉強中なので学習ツールとして試しにやってみようかなと考えています。
- ・LapBook はとても面白そう！と感じました。完成した Lap Book からはもちろんですが、作るプロセスでもいろいろな学びがあると感じました。
- ・ラップブックについては、ブレークルームで話し合う中、紙媒体で手書きで作ったものというイメージから、私は、文字や絵、写真だけの表現では伝えたいことが限定されるという思いがして、当初、今や色々な表現がスマホで QR コード化出来るようになっていていると思っていたので、音、写真、動画データを QR コード化してラップブックに貼り付けたらどうかとの提案をしました。その後、暴走して、パソコンやスマホでネット上で共有したら良いのではとの提案に変化、結局それはラインのグループチャットとか SNS にアイデアを書き込んだり、して共有するというものと殆ど同じ事と気が付きました。紙媒体と電子媒体の違いで、表現の範囲はかなり違いますが、ラップブックを皆で共有してテーマごとに作ってゆく過程は

共通しているので、紙媒体で作る利点（触覚、匂い、実物も貼付できるなどの利点もある）とは別に、遠隔地同士でも同じテーマごとに共通プラットフォームを開設すれば共同作業も可能な電子版ラップブックも可能性有りだと思いました。

- ・LapBookの可能性。「自分だけの」、「自分にわかりやすい」ものを作ることができる。応用性の高いものだと思います。

5、その他、事務局にご質問のある方はどうぞ。

- ・とてもいい内容で、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・いつもありがとうございます。ついに後半ですね。また宜しくお願いします。
- ・毎回とても勉強になるご講演を企画していただき、ありがとうございます。グループディスカッションもとても楽しいです。事務局の方々のお働きに心より感謝申し上げます。
- ・今回も充実した内容の講座をありがとうございました。たくさん意見交換をすることができて、刺激いっぱいになりました。いつもあっという間に終わります。遠方から仲間に入れていただけて本当にありがたいです。ご準備大変だと思います。ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・いつもありがとうございます。
- ・こういった素敵な学びの機会が、広く提供されることはありがたいことですね。企画、運営ありがとうございます。お疲れさまでした。受講中、フィリピンナガイサスタッフのお子さんが隣でかわいく映っていましたね。印象に残りました。
- ・今回はグループでの話し合いの時間がたくさんあって、参加する人達とも話すことができました。参加者の人達が、話し合えるオンラインの場がもっとあったらいいなあと思いました。そんな会を、フィリピンナガイサさんで企画する予定はないですか？